



寺報

2021年(令和3年)

No. 304

3月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En [えん]

お釈迦様(その3)

瞑想の末に悟りを開く

出家したお釈迦様は6年間苦行を継続したものの、なかなか悟りを開けずにいました。それでも修行や苦行を続けたお釈迦様の肉体は限界に到達。死線をさまよったお釈迦様は、ウルウェーラー村に住む少女によって助けられ、一命をとりとめます。

その後のお釈迦様は苦行をやめ、菩提樹の下で瞑想をするようになります。その姿は周囲から理解されませんでしたが、やめることなく何日も瞑想を続けました。そして、12月8日、お釈迦様はついに悟りを開いたのです。このとき、お釈迦様は35歳っていました。

お釈迦様が初めて教えを説く相手として選んだのは、一緒に苦行をした5人の修行者でした。お釈迦様が苦行をやめたことを知っていた彼らは、当初その教えを拒もうと考えていました。

しかし、瞑想の末に悟りを開いたお釈迦様の姿や教えは彼らの心を動かし、考えを一変させました。そして、5人全員がお釈迦様の弟子になったのです。この時が、仏教の教団が成立した瞬間だと言われています。

お釈迦様は80歳で亡くなるまでの約45年間、仏教の開祖として人々に教えを説き続けました。その教えは年を経るにしたがって、誰にでも分かりやすいように、また、実践的になっていったと言われています。



当初は、ホームページをバーチャル ZENKO-JI として仮想空間に寺院を構築し、リアル（現実）善教寺と、二本立てのような歩みをしていました。

バーチャル ZENKO-JI は、ブログが流行る前だつたせいもあり、日々かなりの掲示板への書き込みがあり、それなりに、仮想空間で上手く運営が出来ておりました。しかし意外とバーチャル ZENKO-JI での作業量が多くなり、リアル善教寺の



運営に支障が出始め、あえなくバーチャル ZENKO-JI は閉鎖へ。閉鎖から約二十年、仮想空間（バーチャル）のイメージとは違いますが、法事がオンライン化していくかもしれません。

運営に支障が出始め、あえなくバーチャル ZENKO-JI は閉鎖へ。閉鎖から約二十年、仮想空間（バーチャル）のイメージとは違いますが、法事がオンライン化していくかもしれません。

運営に支障が出始め、あえなくバーチャル ZENKO-JI は閉鎖へ。閉鎖から約二十年、仮想空間（バーチャル）のイメージとは違いますが、法事がオンライン化していくかもしれません。

住職レター

私が住職に就任した平成七年当時、世の中はインターネットが一般家庭に普及し始めた頃でした。ネット上にホームページを開設して、情報発信してきました。ゆくなく、ましてや地方の寺院がホームページで情報発信するなんて、まだ少なかった時。こんな頃から、